

○議長（井上勝彦君）順番11、4番 楠本君。

〔4番（楠本知子君）登壇〕

○4番（楠本知子君）ただ今議長のお許しをいただきましたので、通告に従い一般質問をさせていただきます。

1つ目は、「避難カードの活用と避難所の周知について」であります。

県民の友9月号には、この避難カードの活用が掲載されております。和歌山県民減災運動として、自分の緊急避難先と避難所を把握するための避難カードを作成され、各市町村に配布をされました。避難カードを通して、ふだんから避難場所について家族で話し合いをすること、避難経路を確認しておくことが非常に大切です。小中学校の授業や企業・自治会などを対象に防災教育で手渡していきますというふうに広報されております。

そこで、3点お伺いいたします。

一つ、避難カードの活用を含めて、夏休みを利用して家庭内で避難先などについて話し合う防災教育が進められたか、お伺いいたします。

二つ目に、市民の世帯に対しましては、この9月広報とともに配布されたかと思えます。避難カードは、活用していただくことでお一人でも多くの人に避難場所や避難経路について知り、そして考え、減災活動を各自で、また各地域で深めていただけるきっかけ材料になると考えます。避難カードの有効活用を各自治会でどう周知されましたか。

3番目に、市民の皆様にも、また、どこから来ていただいてもわかるように、避難場所を知ってもらい、避難行動に役立ててもらうため、避難場所の標識板の設置について伺いま

す。

二つ目に、認定こども園の整備と子育て支援について伺います。

国では社会保障と税の一体改革関連法案が可決をし、子育て関連で提案されていまして総合こども園は、制度が複雑、株式会社の安易な参入で質の低下のおそれがある、また、待機児童の8割を占める3歳未満児の受け入れが義務づけられておらず、待機児童の解消にはつながらない、自治体の保育義務をなくしているなど、現場の保育教育に混乱をもたらす可能性が大きいということで、認定こども園の拡充を進めていく方向が示されました。文部科学省と厚生労働省の二重行政解消のため、内閣府のもと単一の施設として認可・指導監督を一本化するとなっております。

橋本市では昭和23年に高野口幼稚園が開園されてから、以来、公立幼稚園12園、私立幼稚園3園、公立保育園15園、私立保育園3園、合わせて33園の施設がありました。

施設の老朽化と少子化のため、これからの時代のニーズに合った新たな乳幼児施設として認定こども園を整備していく幼保一元化計画がつけられました。第1次計画では認定こども園を5園、また、次の第2次計画ではその課題を引き継いで平成26年から作成をするということでもあります。

現在、高野口こども園、またすみだこども園が開園されておりますが、認定こども園を中心とした就学前の子どもたちの環境整備計画は、女性の方が安心して出産し、子育てをしながら働くことができる橋本市、子どもを産み育てやすい橋本市となるための計画でなければならないと思います、3点お伺いいたしま

す。

①子育てが社会保障の重要な柱と位置づけられ、認定こども園を進めるにあたり、今後さらに改善点、メリットがあるのかどうか伺います。

②幼保一元化計画の遅れは、子育てするなら橋本市に住んでいただきたいことにならないと考えます。1次・2次計画を合わせた就学前の子どもたちの施設整備の全体像を早く示すべきではないでしょうか。

③保護者が、特に女性が安心をして働きやすいニーズを把握すること、入所予約制度や休日保育、病中病後児保育、多様な保育の工夫がありますが、我が地域に必要なニーズを把握し、多様な保育サービスを提供していくことについて伺います。

以上、よろしく願いいたします。

○議長（井上勝彦君）4番 楠本君の質問項目1、避難カードの活用と避難所の周知に関する質問に対する答弁を求めます。

総務部長。

〔総務部長（森川嘉久君）登壇〕

○総務部長（森川嘉久君）避難カードの活用についてのご質問にお答えいたします。

避難カードの配布については、「広報はしもと」9月号と一緒に全戸配布させていただいております。この機会に避難カードをもとに各家庭において災害時の避難場所、非常持ち出し品、ふだんからの備蓄品、災害用伝言ダイヤル等について話し合ってもらい、防災意識を高めてもらおうと考えております。

この全戸配布に際しましては、市区長連合会理事会で趣旨説明と配布の協力をお願いし、一時避難場所の再確認作業等も実施していただきながら各自治会に周知いただきました。あわせて、市自主防災組織連絡協議会役員会においても、住民からの問い合わせ等に対してご協力をいただくようお願いしています。

また、学校においても防災教育を進めており、紀見小学校においては8月に防災キャンプを行い、自治会、自主防災会の協力を得ながら避難訓練と拠点避難場所である紀見小学校体育館での宿泊体験を行いました。10月には清水小学校、学文路小学校、学文路中学校の3校合同の避難所体験も行われる予定となっています。

次に、広域避難地・拠点避難場所の看板設置についてですが、広域避難地の看板は、財団法人日本宝くじ協会助成事業によって平成21年度に太陽電池式避難誘導標識として橋本市内で4カ所に設置しております。また、拠点避難場所の看板については、共同事業の一つとして、紀北工業高等学校機械科のご協力のもと、ただ今看板の製作中であり、今年度中には各拠点避難場所へ看板を設置する予定でございます。ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（井上勝彦君）4番 楠本君、再質問ありますか。

4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）ご答弁ありがとうございます。この避難カードにつきまして、この3月でしたか、これは県のつくられた避難カードということで、県から市町村に渡って配布をされたという中で未配布のところが多かったというふうなことが報道されておって、特に橋本市は配布されなかったということを報道されてあったんですけども、いつきとどめ置きされていたかと思うんですけど、今回この9月、防災の月に避難カードを活用していこうということでお配りいただけただけは大変よかったですと思っています。

お配りいただいたということで、各区長会を通しながら各自治会また区の世帯にいただいているんですね。皆さんもこの避難カードをご存じやと。何か静かに配られたような

気がしてね。私とこにも配られたんですけど、何も広報がなく、配布物と一緒に入っておったんです。実際、避難カード、県がつくられておりますので、津波のこととかも書かれてありますので、やっぱり橋本市としては、津波の心配はないし、どちらかという危機意識も和歌山県下の海岸沿いの市に比べたらまだまだ危機管理は弱いと思うんですよね。そんな中でもこうして配っていただき、こういうカードを活用していただくということは、非常に話題性があるいいと思うんです。

こんなカードですけど、皆さん携帯しましょうということなんですよ。実際、皆さん、携帯されてるのかなと思うんですけど。こういうふうに切ったら活用できるんですね。災害伝言のやり方、これも書かれてあるんですけど、意外と皆さん、これ、知っておられないというのもあると思うんです。この間の自主防災大会でも北淡、淡路島の講師の先生のお話を聞かせていただいて、すごくためになった話を私もいっぱい聞かせていただんですけど、こういう情報も非常に大事ですというふうに言われておったので、こういうのもしっかりと見ていただくというのも大事やと思うんです。まだまだ知られておりませんので、これはバッグなどに入れておいてくださいということなんですけど、本当にこれをちゃんとバッグに入れておいていただけているのかなって。橋本市民の方が何人、これを。本当に実行していただきたいんですね、一人でも多くの人に。ほんまに利用していただきたいなということで質問をさせていただいております。

この避難カードの中には避難場所を書くところがあるんですね。いつきの避難場所と、それについては、橋本市としてはここですよということをつけてお配りいただきました。私も我が家でこういうことを話し合わなけれ

ばいけないんですけど、なかなか話し合う機会がなくて、これをもらってから話し合いたんです、家族で。

私の家族は、小さい子どもはおりませんので、大きな大人なんですけど、非常に申しわけないことで、避難場所はどこか知っていると聞いたら、知らないと言われました。そんな状況で、このカードを通して、私のところの地域はいつき避難場所はここで、拠点避難場所はここになるんやでというて話をしたんです。そういうことが一つのカードでもって非常によかったかなというふうに思います。

これを大いに活用していただきたいということで、市民部長も静かにお配りいただきましたけど、今回こうして。

〔発言する者あり〕

○4番（楠本知子君）ごめんなさい。総務部長。総務部長、ネットでも配信されていますのでね。市民の皆さん、きょうは見ておられると思いますので、しっかりとアピールしていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいいたします。

○議長（井上勝彦君）総務部長。

○総務部長（森川嘉久君）議員おただしのおり、静かに配ったわけでもないですけども、ちょっと遅れたこともありまして、さらっと配らせていただいて、あまり周知できなかったという点もあるわけでございます。

遅れた件についてはちょっと理由がありまして、いろいろ問題点もあったということなんですけども、そのほかに、先ほどもご答弁させていただいたんですけども、市の指定の拠点避難場所というのは、市が設定させていただいて、前々からもいろいろ広報させていただいているところなんですけども、それ以外に近くの避難先ということで、こちらのほうのカードにも書く欄がございます。区長理事会のほうでご協力をお願いしたところ、区

長のほうでも、この際、地元の避難場所についてもう一度再確認しようやないかというご意見がございまして、それで一生懸命取り組んでいただきまして、それぞれの地区でやっぱり身近な避難所をきちっとしておこうという格好でご検討いただいた作業がございました。それも若干遅れたのではございますけども、最終的に、先ほども議員のほうからも言っていたいただきましたように、ちょうど9月の防災月間にも間に合ったし、一時避難所のところもきちっと掲載した形でそれぞれ地区別の避難所のリストをつけてお配りさせていただいたということがございます。

そんなこととございますので、防災というのは、議員も言われたように、日ごろからずっと考えておるといってもございせん。何かの機会をとらえてということになるわけとございますけども、この避難カード、本当によくできておりまして、そういう材料として、これ、県知事が一応率先して考えられて、今普及を図られておるようでございます。持っておるか、持っておらないかということもあるんですけども、その以前に一つのきっかけとして本当によいアイデアだったのかなというふうに思っております。

そういう意味で、普及の件なんですけど、配らせていただいて、それなりにきっかけづくりになったかとは思っておりますけども、そのほかにも、先ほども学校のほうの防災キャンプの件もあったんですけど、そのときはまだこのカードが間に合っておりませんで、利用はできなかったんですけども、その後、橋本高等学校のほうでもそういう研修がございまして、そのときにはこのカードの説明をさせていただきます。それから、先ほども申し上げましたように、今度、学文路のほうでも学校での避難訓練等がございまして、そういう機会をとらえて避難カードの認識を

改めてしていただいて、学校だけじゃなしに家庭のほうでも活用いただきたいというお話をさせていただきますと予定しております。

それから、このごろ各自治会で意識がかなり高まってきておりまして、避難訓練されるところがたくさん出てきております。その場合に市の市民安全課のほうにご相談をいろいろいただいているんですけども、講師を派遣させていただいたり、いろんな形でご協力をさせていただきますとおりますので、そういう機会をとらえてこの避難カードの活用についても十分周知をさせていただきますというふうに思っております。

これから防災意識を広める形というのはいろいろな機会をとらえて、常にとということもございまして、避難カードはさらっと配らせていただいたんですけど、一つの機会にはなったかというふうに思っておりますので、今後ともそういう活用について十分説明をさせていただきますというふうに思いますし、避難カード以外にも伝言ダイヤルというのも、これもいざ災害になると大変役立つようでございます。

それから、うちが今現在進めております防災メールのメール配信の件も、まだ登録されていない方がたくさんおられると思うんですけども、そこらも含めて、きのうご質問もいただいておりますけども、広報、それからフェイスブック等のいろんな媒体も通じて、これはいろんなことを通じて防災意識というのは普及しなければならないというふうに思っておりますので、またいろいろアイデアをいただきながら進めていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○議長（井上勝彦君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）総務部長、しっかりとアピールしていただいてありがとうございます。ほんとに活用していただきたいなという

ふうに思います。

このカードを通して、今回、9月は防災の月に話し合いができたということで、やはり節目節目に家族で防災について話し合うという機会が非常に大事やと思うんです。毎年こういうふうに家族防災会議の日をしようと設定されている他市とかもあるんですけど、そういうことを検討されてもいかがかなと思うんですけどね。

和歌山県下では今年には田辺市が家族防災の日を9月にということと定めておられます。本当に津波の危険の多いところですので、やはり意識が違うと思うんですけど、橋本市においてもやっぱりこういう月を9月に持っていくという、そういうふうにこういうきっかけ材料を提供してもらいながらやっていくことは非常に大事と思うんですけど、その点についてどうでしょうか。

○議長（井上勝彦君）総務部長。

○総務部長（森川嘉久君）よいアイデアをいただきましたので、またそれについても検討させていただいて、そのほかにもいろいろございましたら、またよろしく願いいたします。

○議長（井上勝彦君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）よろしく願いいたします。

3番目の看板につきましては、拠点避難看板として紀北工業高校がご協力いただいでつくっていただけたということなので、よろしく願いをいたします。

1番目の質問は以上で終わります。

○議長（井上勝彦君）それでは、この際、4番 楠本君の質問項目2に対する答弁を保留し、2時15分まで休憩いたします。

（午後1時58分 休憩）

（午後2時15分 再開）

○議長（井上勝彦君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

質問項目2、認定こども園の整備と子育て支援に関する質問に対する答弁を求めます。

健康福祉部長。

〔健康福祉部長（北山茂樹君）登壇〕

○健康福祉部長（北山茂樹君）はじめに、子育てが社会保障の重要な柱と位置づけられ、認定こども園を進めるにあたり、今後さらに改善点、メリットがあるかとのおただしについてお答えします。

社会保障と税の一体改革の中では、子ども・子育て支援や医療・介護の安心の確保、雇用や貧困・格差問題への対応を通じ、現役世代や将来世代への支援を強化し、すべての人がより受益を実感できる全世代対応型の社会保障制度をめざしています。

子ども・子育て支援としては、待機児童の解消、幼保一体化、地域の子育て支援の充実を図り、子どもを産み育てやすい社会をめざしています。質の高い幼児期の学校教育・保育の提供や就学前の子どもに対する教育・保育の給付の一本化など、現行認定こども園制度の拡充・強化などを盛り込んだ「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する法律」など、子育て三法案が成立しました。

この改正により、認定こども園の認定条件、教育及び保育の内容の拡充や、特に幼保連携型こども園についての位置づけが強化されることになりました。また、保育教諭等の資格の特例や処遇改善なども明文化され、認定こども園の環境整備が図られています。

ご存じのとおり、橋本市では、幼保一元化5カ年計画のもと、保育所型の認定こども園を整備しています。今回の改正により、本市の進める幼保一元化5カ年計画に直接的な影

響はありませんが、認定こども園への移行や給付制度などの環境整備が進むことにより、より認定こども園へ推進しやすい環境となるものと考えています。

次に、幼保一元化計画の1次・2次計画を合わせた就学前の子どもたちの施設整備の全体像を示し、子どもを産み育てやすい市をアピールすることについてのおただしについてお答えします。

現在、幼保一元化5カ年計画で計画された高野口こども園、すみだこども園の2園が開園し、残りの3園についても整備を進めているところです。

幼保一元化5カ年計画の対象となっていない施設は、平成25年4月開園予定の公設民営保育園の三石保育園と公設公営保育園の紀見保育園、伏原保育園、名古屋曾保育園の3園となります。また、公立幼稚園は、柱本幼稚園、境原幼稚園、紀見幼稚園、応其幼稚園の4園となります。

それぞれに課題があり、個別に対応が迫られることも予想され、現行の計画と並行しながら対応する必要もあり、2次計画により全体像を示すのが難しい状況です。

しかし、橋本市の子どもを産み育てやすい子育て環境をアピールすることは、非常に重要なことであると考えており、橋本市の乳児から学齢期に至るさまざまな取り組み、特に就学前施設である認定こども園、保育所、幼稚園の環境の利点や教育・保育内容の良質さを市内外に発信していきたいと考えています。

3点目の保護者が安心して働けるようニーズを把握することのおただしですが、現在、橋本市で取り組んでいる子育て支援策は、平成21年度に策定した「橋本市次世代育成支援地域対策行動計画」に基づき実施しています。

この計画の策定に当たっては、小学生以下の子どもをお持ちの保護者を対象にニーズ調

査を実施して、その結果を計画に反映しています。

まず、保育園やこども園の入所予約制度についてですが、年度当初の入所は、前年の10月から受け付けを開始して、翌年の1月に内定の決定を行っています。年度途中の入所については、2カ月前から入所の受け付けを行っています。これより早い時点で予約を実施すると、その間は欠員の状態が続き、保育に欠ける度合いの高い方が入園を希望しても応じられないこととなります。

次に、休日保育については、ニーズ調査で希望が少なかったことから、事業実施を見送っております。また、病後児保育については、ニーズ調査では保育希望があり、あやの台保育園で事業を実施していますが、利用はあまりされていない状況にあります。こうしたことは、事業のPR不足も考えられますので、今後、事業実施園とも連携してPR活動に取り組んでまいりたいと考えております。

いずれにしても、子ども・子育て支援法に基づき、子ども・子育て支援事業計画を策定する際には、「橋本市次世代育成支援地域対策行動計画」と同様に、子育て世代を対象としたニーズ調査を実施し、ニーズ量に合わせた事業計画を策定したいと考えていますので、ご理解をお願いします。

○議長（井上勝彦君）4番 楠本君、再質問ありますか。

4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）ご答弁ありがとうございます。

それでは、1番目なんですけれども、本市が認定こども園を進めることに対して、言ったら、推進しやすくなったということでの答弁やったと思うんです。

認定こども園の全国の設置状況なんですけど、平成24年4月1日現在で全国では911件と

いうふうに、調べたら載っていたんですけど、その中で特にベスト5に入るのは、大きな都市部になってしまうんですけど、東京都であったりとか兵庫県、また北海道、長崎県、神奈川県がベスト5になっているんです。和歌山県下では、私が見たところでは6園というふうになっていたんです。6園の中にすみだこども園がまだ入っていなかったの、7園目になるのかなと思うんですけど、これは4月現在ですので、和歌山県下でももう少し増えているのかなとは思っています。

言ったら、認定こども園は和歌山県下では少ないということですよ。6園しかないんですよ。少ない中で橋本市がこのように認定こども園を第1次計画の中では5園を進めていくわけです。それを粛々と進めていただいているかと思うんです。だから、この認定こども園は、本市が和歌山県下では先駆を切ってやっけていただいている政策なので、非常にご苦労があるかと思うんです。特に、本当は認定こども園というのは、保護者のニーズを拾ってこういう園をつくってほしいということでもともと設立されているにもかかわらず、いろんな抵抗勢力があってなかなか進まないというふうに言われているんですけども、そういう既存の施設になかなかその気がないとか、そういうところ辺ですごい抵抗があるんですけど。また、私自身は女性としてこういう新たな乳幼児施設としての認定こども園が今の施設としては大変いい施設になっていくのではないかと期待を持っているんですけど、その5園を進めていくということには大変ご苦労されていると思うんです。

そのこととあわせて、第2次計画の中にはその認定こども園以外の保育所であったり幼稚園であったりとかが含まれております。認定こども園とプラス保育所・幼稚園、そのすべての施設が全体的に見て橋本市の就学前の

施設全体像になると思うんです。こども園だけで進めるわけではありませぬので、その全体像を早く市民の皆さんに、また子育てするこれからの若者世代にお知らせをするとか、こういうふうになるんですよと示すことは、安心していただけるのではないかと思うんです。

1次計画が終わらないと2次計画は示さないと言われるのは、認定こども園だけが残って不安が残ると思うんですけど、全体像をこういうふうにして橋本市は子育てしやすい施設をつくっていくんですという方向性を示していただけたほうが、橋本市は子育てしやすいまちなんですよとできると思うんですけど、その辺についてももう一度ご答弁いただけますでしょうか。

○議長（井上勝彦君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（北山茂樹君）議員のおただしにお答えします。

確かに、市民の方に全体を示すということは、橋本市の子育てを今後どうしていくのかということを示す一つの基本的な考えになるかと思えます。

橋本市といたしましては、認定こども園を今後も推進するというのが基本的な考えでございます。現行の幼保一元化5カ年計画で見ますと、計画より遅れてはいるんですけども、5年で5カ所を認定こども園化して整備していくという、もともとの計画がありまして、その5カ年計画の中では平成21年度から25年度までの5カ年という計画でございました。

次の2次計画につきましては、25年中に策定するというようなことも幼保一元化5カ年計画の中にうたわれておるわけでございます。といいますのが、やっぱりある程度1次計画が進んだ中で次の2次計画を示していくということになるかと思えます。ただし、現時点では1次計画が非常に遅れているという現

状の中で、実際の2次計画につきましては若干遅れていくことになろうかと思えます。

しかしながら、全体像を示すというのは非常に大事です。最初のご答弁でもお話ししたんですけども、個々の案件といえますか、そういう問題も実際出てきています。といいますのが、三石保育園は、ご存じのとおり、危険であるということで移転をし、民間委託という形の中で保育園として整備、残っていくということになろうかと思えます。これは将来的に見れば、周辺の幼稚園も含めたこども園になる可能性もあるわけでございますけども、現在では保育園として整備していくと。

あと、残されているのが伏原保育園、名古屋保育園もあるんですけども、伏原保育園、名古屋保育園につきましては、現在、耐震化の診断を実施しておりまして、その結果いかんによってはどのように展開していくかというのが今のところ目に見えておりません。応其幼稚園も含めたこども園化していくのか、危険な保育所だけをまず整備していくのかというところがまだ現在のところ決まっていないという状況です。それぞれ個々の案件もございまして、今のところ全体像を示せないというのが実情でございます。

○議長（井上勝彦君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）部長が言われていることはよくわかるんです。けども、認定こども園もあり、保育所もあり、幼稚園もあるという、そういう認定こども園だけではなく、いろんな保育所・幼稚園を整備していく全体像を見て、いろんな保護者が選べる選択肢を持つということは大変大事なことだと思うんです。大事な全体像だと思うんですけど、今言われていた伏原保育所、名古屋保育所が耐震されているので、その次第でどのようになるかわからないというのではなくて、建物次第でどないなるかわからないというのは政策で

はないんじゃないかなというふうに思うんですけど。橋本市の乳幼児施設の全体像を、認定こども園を含めて全体的にいろんな多様なニーズを含んだ整備環境にしていくんだという姿勢の中で、施設が耐震がどうのこうのなるから、それを待ってないとわからないんですというの、それは計画ではないと思うんですけど、その辺についていかがですか。

○議長（井上勝彦君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（北山茂樹君）伏原、名古屋につきましては一例を申し上げたんですけども、市の基本的な考えというのは、やっぱり認定こども園の推進というのが一番大きな考え方でございます。ただ、議員おっしゃられたとおり、市民のいろんな選択肢というのも当然考えていかなければなりませんので、認定こども園だけという考え方ではございません。例えば単独の保育園、単独の幼稚園、幼稚園でも統合して一つの幼稚園にするとか、いろいろな考え方もありますし、それから、公設公営の保育所、公設公営の幼稚園、そういうこともやっぱり検討の視野に入れていかなければならないというように今考えておりますので、それらも含めてできるだけ早く全体像を示す必要はあるというように認識はしております。

○議長（井上勝彦君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）それでは、その方向を示していただくということで理解させていただきます。それは、今の幼保一元化5カ年計画の中では25年度には第2次計画を含めて発表するという事によろしいですか。

○議長（井上勝彦君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（北山茂樹君）それは、あくまで5カ年計画が21年から25年までで完成するという前提のもとで平成25年度中に2次計画を計画するという事になっておりますので、今の現在で1次計画が若干遅れている現

状の中では、必ずしも平成25年度中に2次計画をつくるということではありません。

○議長（井上勝彦君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）そしたら、1次計画も2次計画もあわせて発表して、できるところからやっていくという考え方もあると思うんですけど、その点についてはいかがですか。

○議長（井上勝彦君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（北山茂樹君）確かに、今の1次計画を残る3園も含めて次の園も入れた計画をつくるということにもなるかと思えますけども、まず、やっぱり幼保一元化5カ年計画自体が五つのこども園をつくるということを前提として市としては取り組んでいきたいと、かように思っております。

○議長（井上勝彦君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）わかりました。あまり理解できないんですけどね。全体像を示されて、そしてできるところからやっていく、施設整備をしていくというふうにされるのがなぜできないのか、ちょっと理解できないんですけど、部長に言っても平行線かなと思うので、また続けてお二人の議員もいろいろ子育てのことで質問されると思うので、バトンタッチしておきます。

次の3番目なんですけど、これ、子育てのいろんな助成として、今、女性の方も働きに行かれる方がだんだん増えてきておりますので、そうした働きやすいニーズを把握することによって、こういう保育があるということをやっただけで、これが必要やとは言っておりません。必要なニーズを把握して、必要な保育をつけていただくサービスをしっかりとやっていただきたいということで聞かせていただいております。

前にも同僚議員が一般質問もされていることもあるんですけど、入所予約制度なんかも言われておりますし、延長保育なども言われ

ております。例えば入所予約制度につきましては、ゼロ歳児・1歳児におきましては、これからニーズが増えてくると思うところだと思います。この入所予約制度を実施していくのであれば、もしやっていただけるのであれば、例えば、これからつくっていただく認定こども園の中で、まずゼロ歳児・1歳児というのは、それだけの保育士の確保であったりとか、施設自身のある程度の大きさが必要です。そういうものを見込まないでつくってしまうと、いくらゼロ歳児・1歳児の入所予約制度をしたいと思ってもできないわけです。そういうニーズが今後あれば、施設を少し余裕を持って部屋をつくっていただくということをしていただけたら、必要なニーズであれば、それはできるわけです。でも、最初から施設整備をそういうふうにしてしまったらできないわけですので、これから3園が作られてまいりますので、そういうことも考えて整備していくおつもりがあるのか。していただきたいということなんですけど、その辺についてお答えいただけますでしょうか。

○議長（井上勝彦君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（北山茂樹君）保育ニーズにつきましては、近年の経済情勢の変化と相まって、当然、職場環境も多種多様となっているというのが現状だと思います。それに伴って保育ニーズも時とともにやっぱり変化していくということで、どんどん多様化される中で、市としても工夫は必要かと考えております。

ところが、先ほど議員もおっしゃったとおり、いくら施設を整備しても保育士不足というのが今でも現状としてあるわけです。それと財政面のこともございます。その条件の中で、基本的には保育ニーズ、特に今ゼロ・1歳児の保育というのが非常にニーズが高まっているということも事実でございます。ゼロ・

1歳児といいますと、当然、保育士もかなり人数が要するというにもなりますので、保育士の数とか、それから財政的な問題、それから保育ニーズも、それぞれいろいろ検討した中で施設の整備を図っていききたいと、かように思っております。

○議長（井上勝彦君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）保育ニーズを検討してということでございますけど、今の状態の中でもゼロ・1歳児については少し待機児童がみなんですよね。だから、今後建てられる3園についてですよ。保育士も不足ですけども、保育士は人材ですので、また確保できる可能性も増えてまいります。でも、施設整備は今建てる時にしておかないと、途中でなかなかできないと思うんです。今でさえもゼロ・1歳児については、保育としてはニーズがあると思うんですけど、そういう一般質問もされている中で検討するということも含めての話やと思うんですけど、絶対これから必要になってくるんだと思います。今後建てる場所にはそういう余裕を持って建てておきますということぐらいは。認定こども園にしているような保育サービスをしていくわけでしょう。認定こども園の中で必要な保育サービスをつけていきますということで市は認定こども園をつくるという方向性を示されておるわけですから、必要とされる保育については大いにやっていくという方向性を示していただきたいと思うんです。

○議長（井上勝彦君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（北山茂樹君）当然、施設を建設する際に、後でまた増築するというようなことはできませんので、施設建築の際には保育ニーズを十分精査した中で施設整備を図っていくということになるかと思っておりますので、ご理解をお願いします。

○議長（井上勝彦君）4番 楠本君。

○4番（楠本知子君）よろしくお願ひいたします。その他いろんな保育の工夫があると思うので、橋本市は認定こども園を進めながら、必要な保育ニーズはしっかりとやっていくんだという姿勢を示していただきたいと思ひます。

以上で一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（井上勝彦君）4番 楠本君の一般質問は終わりました。